美里町学校再編ビジョン

平成28年 6月

美里町教育委員会

目 次

I	はじめに.....	2
II	学校再編の必要性.....	3
III	これまでの経過.....	3
IV	美里町学校教育環境審議会の答申.....	4
	1 適正規模に関する基本的な考え方	
	2 適正配置及び通学区域に関する基本的な考え方	
	3 施設整備に関する基本的な考え方	
	4 学校等が抱える将来的な課題に関すること	
	5 上記に掲げることを適正化するための具体的な方策	
V	アンケート調査及び意見交換会.....	6
VI	学校再編ビジョン.....	8
	1 ハード面	
	2 ソフト面	
VII	実施方法.....	11
	1 再編に係る人的配慮	
	2 具体的なスケジュール	
	3 保護者等への周知	
	4 課題、意見等への対応	
VIII	実施期間.....	11
IX	その他（資料編）.....	12

I はじめに

美里町の学校教育基本方針は、町民憲章の理念に基づき、幅広い知見と自主性、社会性、国際性を身につけ、自ら考え、判断し、行動できる実践力があり、また、人との支え合いを大切にしながら、それぞれの地域のよさを引き継ぎ、ふるさとに誇りをもつ人間を育てることであります。

美里町学校教育環境整備の基本理念は、すべての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができる学校教育全体について、整備を行うことです。

そのため、美里町教育委員会では、少子化が進行する中において、子どもたちにとって望ましい学校教育環境の実現を図るため、学校教育環境整備方針に基づいて、美里町の将来の学校教育環境を整備するための「**美里町学校再編ビジョン**」を示します。

II 学校再編の必要性

社会及び経済状況の変化に伴い、全国的に少子化傾向が進む中であって、本町においても、児童生徒数の減少がみられ、小規模化が進行している学校もあります。

また、一部の学校においては、施設及び設備の経年劣化による老朽化もみられるようになりました。

このような中で、子どもたちが助け合いや、競い合いの中で形成される社会性と生きる力の育成、基礎学力を身に付けるための教育環境全般の充実・整備が課題です。

美里町教育委員会では、学校教育環境整備を学校の再編も視野に入れて進めていく必要があるという、基本的立場にたっております。

学校教育は児童生徒の集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要であり、小中学校では一定の集団規模を確保することが望まれます。

このような状況を作るには、現在の学校の再編を考えなければなりません。

小規模校のメリットも当然ありますが、本町の子どもたちにとって望ましい学校教育環境が適正なものとなるよう、学校の再編は必要であると考えております。

III これまでの経過

学校教育環境の充実を図るため、美里町教育委員会では次のとおり取組みを行ってまいりました。

平成24年4月	学校教育環境整備の必要性について協議 (教育委員会定例会)
平成24年6月	学校教育環境整備の進め方について協議 (教育委員会定例会)
平成24年6月	美里町学校教育環境審議会条例施行
平成24年8月	教育委員会が美里町学校教育環境審議会へ諮問(5項目)
平成24年8月	美里町学校教育環境審議会(会議開催13回)
～平成26年3月	
平成26年3月	美里町学校教育環境審議会から答申
平成27年2月	学校教育環境整備に関するアンケート実施 (保護者及び教員対象)
平成27年8月	学校再編にかかる住民等意見交換会(町内3会場で開催)
平成27年11月	住民等意見交換会 (8月実施した意見交換会は参加者少数により、再度町内3会場で開催)

IV 美里町学校教育環境審議会の答申

平成24年8月に教育委員会の附属機関として、美里町学校教育環境審議会を設置し、5つの項目を諮問しました。

平成26年3月に教育委員会へ答申をいただきましたが、その内容は次のとおりです。答申では、「近い将来の課題等を中心に調査審議したため、おおよそ平成30年度までの基本的な考え方を示したものである」ことが付されております。

1 適正規模に関する基本的な考え方

区 分	内 容
小 学 校	一学年（単学年）につき学級替えができる学校規模を基本とすることが望ましい。
中 学 校	教員免許が教科専任制であることを踏まえ、国語・英語・数学・社会・理科を担当する教員が複数配置されるよう、一学年（単学年）につき、3学級以上の学校規模を基本とすることが望ましい。

2 適正配置及び通学区域に関する基本的な考え方

区 分	内 容
小 学 校	<ul style="list-style-type: none">○ 通学区域は、行政区ごととなっている現在の通学区域を基本とすることが望ましい。○ 小牛田地域の小学校においては、現在の中学校区単位の学校配置が適正と思われる。
中 学 校	小牛田地域の中学校においては、当分の間、現在の中学校区単位の学校配置が適正と思われる。ただし、将来を見据え学校規模の適正化を踏まえた検討を継続する必要があると思われる。
南郷地域	幼稚園、小学校、中学校の通学区域が同一であり、かつ教育施設が隣接しているので、当分の間、配置は現状のとおりとする。

3 施設整備に関する基本的な考え方

区 分	内 容
共 通	<ul style="list-style-type: none">○ 良質な教育環境を保持するために、中長期的な観点に立っての整備計画の作成が望まれる。○ 児童生徒の生活環境の変化に対応した施設整備が望まれる。○ 現状を把握し、「現況施設設備台帳」を作成する。また、日ごろの保守点検整備を実施し、「保守点検記録簿」により現況の把握を公正に行い、施設や設備の長寿命化を図ることが望ましい。○ 学校等の適正配置の観点から、大規模改修や新たな建設等が必要とされる場合においても、施設全体のトータルコストを十分に考慮し、現在の施設の利用が可能かどうかなどを踏まえ、中長期的な観点に立って検討することが大切である。

4 学校等が抱える将来的な課題に関すること

区 分	内 容
共 通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化の進行が続くと推測されるので、今後子どもたちの健全な成長、学力向上・体力向上や社会性の涵養に結び付く教育施策の検討が課題となる。 ○ 国レベルの教育改革を視野に入れた中長期的展望の検討が課題である。 ○ 幼児教育、保育のあり方については、国の「子ども・子育て新システム」を視野に入れた計画立案が求められる。 ○ 学校等の適正配置に伴うスクールバス運行計画は、子どもの登下校時の安全確保のほか、放課後活動の時間確保やバスの経路、回数等についても、検討することが望ましい。 ○ 学校等の再編が検討される際は、児童生徒が不安にならないよう「こころのケア」を充実させる必要がある。また、小規模学校・学級での教育効果のメリットが、活かされることが望まれる。 ○ 東日本大震災で被災したと思われる施設の補修が一部未着工であるので、児童生徒の安全のため、早期の着工が望まれる。 また、災害復旧事業を優先したために、以前より計画されていた施設改修・整備計画（不動堂中学校プール改修、校庭整備等）が未着工であるので、早期の整備が望まれる。

5 上記に掲げることを適正化するための具体的な方策

区 分	内 容
共 通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画立案の段階から、学校（子ども、教職員）・家庭及び住民の意見を聴き取り、その意見を反映させることが望まれる。 ○ 意見を反映させた原案は、懇談会や説明会を通して、地域住民の理解を得ることが必要である。 ○ 整備計画案の作成には、パブリックコメントの実施が必要である。

V アンケート調査及び意見交換会

教育委員会では、美里町学校教育環境審議会からの答申を受け、具体的な方針を策定するため、平成27年2月に幼稚園と小中学校の保護者及び教職員へアンケート調査を行いました。

また、平成27年8月及び11月には、「美里町学校再編ビジョン骨子」（素案）を示した上で、保護者及び住民との意見交換会を実施し、様々な意見をいただいたところです。アンケート調査及び意見交換会における、質問・意見・要望・提言等の主な内容は、次のとおりです。

◆ アンケート調査（多い意見を記載）

- 1 一学年の学級数について
 - ・小学校の保護者回答：幼少中とも2学級が望ましい。
 - ・中学校の保護者回答：幼少中とも3学級が望ましい。
- 2 通学区域について
 - ・行政区単位が望ましい。
- 3 学校再編について
 - ・小学校の保護者回答：小学校は現状（6校）のままが望ましい。 }
：小学校は中学校区（3校）が望ましい。 } ほぼ同数
 - ・中学校の保護者回答：中学校は現状（3校）のままが望ましい。（約8割）
：中学校は町内2校が望ましい。

◆ 意見交換会

【意見・要望】

- 1 緊急性のある改修は、再編ビジョンとは別に早急に対応してほしい。
- 2 在校生にとって「学校がなくなる」、卒業生にとって「母校がなくなる」ということも考慮し、再編を考えてほしい。
- 3 人数が多いことで社会性を育むことが出来ると考える。成長の過程で、多くのふれあいがあることが「生きる力」になると思う。統合再編には賛成である。
- 4 学級の人数が多くなった場合には、発達障害等を有する子どもへの配慮が必要である。
- 5 スクールバスの運行は、安全安心が最優先される。再編する際は、台数や増便の配慮が必要になってくる。
- 6 学校教育環境審議会の答申のとおり進めてほしい。
- 7 学校再編の検討は、町の一体化を図るいいタイミングだと思う。
- 8 再編する際は、各学校の児童生徒数が同じになるようにし、先生たちの目が行き届くようにしてほしい。
- 9 再編はあり得ると考える保護者は多いはず。町から具体的な説明があってもいいのではないかと。早く進めてほしい。

- 10 統合・再編はやむを得ないと思う。学校がなくなることは寂しいが、子どもにとってはよいと思う。
- 11 町全体を考えたとき、中学校2校（小牛田地域1校、南郷地域1校）でよいと思う。中学校を先に適正化して、その後に小学校再編を考えたらどうか。

VI 学校再編ビジョン

美里町学校教育環境審議会からの答申、アンケート調査の結果及び意見交換会等をとおしていただいた意見等を踏まえ、教育委員会で協議し、美里町の小中学校の教育環境を次のように再編整備することによって、教育効果が期待できるのではないか、という結論にいたりました。

1 ハード面

【小学校】

内 容	理 由
<p>現在の6校を1校にせざるを得ない状況が到来することを視野に入れて考える必要がある。</p> <p>経過措置として、現在の中学校区に、1校ずつの3校にできるだけ早く再編する。</p>	<p>○ 現在において、全学年2学級であるのは不動堂小学校のみである。</p> <p>学級替えができない学校が3校、学年によって学級替えができない学校が2校である。</p> <p>今後は、学級替えできない5校と学級替えできる1校とが予想されることから、6校を3校にできるだけ早く再編し、学級替えができるようにする。</p> <p>学級替えができるようになることによって、教員と児童、及び児童同士の人間関係が多様化される学習の場が形成され、多様な考え方に触れる機会や、学び合う機会が増えて、児童の精神的成長の面でも良い成果が生み出されることが期待できる。</p>
	<p>○ 学年担当教員の複数化により、教職員同士が連携し、指導力の向上が図られ、児童の学力向上に結びつくことが期待できる。</p>
	<p>○ 児童を見る視点が複眼的になり、児童の生活状態、心理状態、学力状態をより客観的に把握でき、いじめの早期発見、学力向上に結びつくことが期待できる。</p>
<p>既存のどの校舎等を使用するかに関しては、大規模改修や増築等を行うための費用、及び周囲の環境等を勘案し、住民・保護者等との十分な話し合いによって決定することが必要である。</p>	

ハード面の整備に要する大規模改修や増築等を行うための費用は、今後、概算費用を算定し、示していく必要があります。

【中学校】

内 容	理 由
<p>現在の3校を1校にできるだけ早く再編する。</p>	<p>○ 現在は3校のうち、1学年につき3学級となっているのは、小牛田中学校の2学年、不動堂中学校の1学年だけである。</p> <p>各学校には国語・英語・数学・社会・理科の5教科の担当教員が複数配置されているわけではない。</p> <p>今後もこの状態が予想されるため、3校を1校に統合することにより、5教科の担当教員が複数配置され、教科に関する研究や意見交換などで教科指導力が向上し、生徒の学力向上に結びつくことが期待できる。</p>
	<p>○ 5教科担当教員の複数化により、生徒を見る視点が複眼的になり、生徒の生活状態、心理状態、学習状況をより詳細に把握できるようになり、いじめの防止、学力向上に結びつくことが期待できる。</p> <p>また、一学年3学級以上の学校規模であれば、免許外教科担任指導の解消も期待できる。</p>
	<p>○ 現在は3校とも生徒数の関係から、生徒の要望の強い部活動の種類形態を設定できない状態にある。</p> <p>一学年につき、3学級以上の学校規模になることによって、生徒に部活動の多様な選択肢を提供できるようになり、部活動がより活発化することが期待できる。</p>
	<p>○ 美里町が誕生して、今年で10年となる。</p> <p>3校を1校に統合することにより、町民の一体感をより促進することが期待できる。</p>
<p>既存のどの校舎等を使用するか、また新校舎等を建設するかに関しては、既存の校舎等を大規模改修や増築等を行うための費用、新校舎建築等に要する費用及び周囲の環境等を勘案し、住民・保護者等との十分な話し合いによって決定することが必要である。</p>	

ハード面の整備に要する大規模改修、増築等及び新築を行うための費用は、今後、概算費用を算定し、示していく必要があります。

2 ソフト面

【小学校・中学校共通】

内 容	理 由
全学年30人未満の学級編成を目指す。	○ 担任教員又は各教科担任が一人ひとりの児童生徒に目が届きやすくなり、児童生徒の生活状態、心理状態、学習状況をより詳細に把握できるようになり、いじめの防止、学力向上に結びつくことが期待できる。
	○ 学級替えができる機会が40人学級や35人学級より増え、このことによって児童生徒の人間関係がより多様化し、多様な考え方や、学び合う機会が増え、精神的成長の面でも良い成果が生み出されることが期待できる。
学習形態の多様化により少人数指導の実施を行う。	○ 各教科の習熟度別学習等の少人数指導を実施することによって、児童生徒が一人ひとりの学力状態に応じて、きめ細かな指導が可能となり、学力の向上が期待できる。

ソフト面の整備においては、30人未満の学級とした場合及び学習形態の多様化による少人数指導を実施する場合の必要経費をそれぞれ算定し、示していく必要があります。

VII 実施方法

1 再編に係る人的配慮

- (1) 学校再編を推進するにあたり、学校再編を専門とするセクションの設置が望まれ、次に示す業務を行うことが考えられます。
- ・保護者への説明、意見交換に関すること。
 - ・地域への説明、意見交換に関すること。
 - ・対象校となる学校の閉校及び再編校の開校に関すること。
 - ・その他再編準備全般に係ること。
- (2) 再編準備にあたり、教育委員会事務局だけでなく、町長部局の関係課との協力体制を構築する必要があります。
- (3) 学校現場においては、教職員の加配を目指していきます。

2 具体的なスケジュール

平成27年12月 美里町学校教育環境整備方針の決定
 平成27年12月 美里町学校再編ビジョン（案）の決定
 平成28年 4月 美里町総合計画・美里町総合戦略の開始
 平成28年 4月以降 美里町学校再編ビジョン（案）の説明及び意見交換
 再編整備については【Ⅷ実施期間】を参照

3 保護者等への周知

美里町学校再編ビジョンを説明し、意見交換を行います。
 一度きりの説明で方針を決定することはできないため、数回にわたり意見交換を行っていきます。

4 課題、意見等への対応

説明会等をとおし、多様な意見をいただくことが考えられますが、教育委員会
 は真摯に対処し、その結果についての周知を行っていきます。

VIII 実施期間

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年	平成33年度	34年度以降	
事業期間		I期				II期		
ビジョン説明	→		→	→				
意見募集	→							
見直し	→	→		→				
小学校再編	説明	→				方針決定	設計	工事
中学校再編	説明	→	方針決定	設計	工事			

Ⅸ その他（資料編）

- 1 美里町立小中学校、幼稚園変遷一覧
- 2 美里町立学校等施設の状況
- 3 美里町立小中学校児童生徒数推計一覧
- 4 その他